



---

---

労働政策研究報告書 No. 60

2006

JILPT : The Japan Institute for Labour Policy and Training

---

---

---

## NPOの有給職員とボランティア

—その働き方と意識—

労働政策研究・研修機構

# NPOの有給職員とボランティア

—その働き方と意識—

## まえがき

近年の我が国において、様々な社会問題（例えば子供への虐待、地球温暖化現象、食品に対する不安、地震や台風などの災害、地域紛争、薬物汚染、少子高齢化社会、若年雇用問題など）が深刻化、複雑化してきていることは否めない。これらを地域で、そして同じ問題意識を持つ者が NPO を創り、解決しようという動きが活発化してきている。「官から民へ」と、これまで行政が中心となっていた公共サービスを積極的に民間に委託し始めたことも NPO の活発化を後押ししている。1998 年の特定非営利活動促進法施行後、特定非営利活動法人（NPO 法人）の数は毎年倍々に増加し、2005 年 12 月時点で 2 万 5 千団体を超え、NPO 法人の有給職員数はおよそ 10 万人と推計されている。今後さらに NPO の果たすべき役割は大きくなっていくことは間違いないだろう。

NPO が拡大していく中、今後 NPO で働く者も増加していくであろうと予想される。今や NPO は無償ボランティアだけでなく、多くの有給職員が働く場となっており、また「有償ボランティア」といったボランティアと有給職員との中間的な形態で活動する者もみられるようになってきている。しかし、その働き方や意識についての先行研究は少なく、実態はほとんど知られていない。

本研究では雇用者である有給職員のみならず、ボランティアの形態で活動している者も「就労」の範疇に含め、NPO で活動する個人を対象に調査（「NPO 活動と就業に関する実態調査」）を行った。調査結果から NPO で活動する人の働き方と意識を丁寧にみていくことが本研究報告書の第 1 の目的である。また、分析を深めることによって、NPO の今後の活躍を支える有給職員やボランティアに対するマネジメントはどうあるべきなのか、さらには今後の労働政策の中で NPO やボランティアをどのように位置づけたらよいかを考察している。

NPO と「就労」に関する研究はまだ緒についたばかりであり、本研究は今後進められるべき研究蓄積の最初の一里塚とも言うべきものであるが、これまで必ずしも整理されてこなかった数々の知見を提供できているのではないかと考える。本研究報告書が広く読まれ、「就労」という視点も踏まえた今後の NPO の発展と、NPO の「就労」を考える上で政策担当者をはじめ、NPO に携わる人々の参考になれば幸いである。

2006 年 5 月

労働政策研究・研修機構

理事長 小野 旭

「NPOの有給職員とボランティアその働き方と意識―」執筆担当者（五十音順）

氏名	所属	執筆章
うらさか じゅんこ 浦坂 純子	同志社大学社会学部 助教授	第3章
おの あきこ 小野 晶子	労働政策研究・研修機構 研究員	序章、第1章、第4章
たなか なおき 田中 尚輝	特定非営利活動法人 市民福祉団体全国協議会 専務理事	第6章
ふじもと たかし 藤本 隆史	労働政策研究・研修機構 アシスタント・ フェロー	第5章、資料編
もりやま ともひこ 森山 智彦	同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程	第2章、資料編

※ 執筆者以外の研究参加者

浅尾 裕 労働政策研究・研修機構 主席統括研究員

# 目次

序章 研究の背景と目的.....	1
第1章 調査の概要と報告書の構成.....	5
第1節 調査方法.....	5
第2節 言葉の定義.....	6
1. NPO の定義.....	6
2. 活動形態の定義.....	7
第3節 報告書の構成と要旨.....	10
1. NPO 法人活動者の個人属性・働き方・意識	
－ 「NPO 活動と就業に関する実態調査」 から－ (第2章).....	10
2. 団体要因・労働条件・継続意思－有給職員の賃金分析を中心に－ (第3章).....	12
3. 有償ボランティアの働き方と意識－謝礼は活動継続につながるか－ (第4章).....	14
4. NPO 活動への参加経路について (第5章).....	16
5. NPO における労働とボランティア－現場の視点から－ (第6章).....	18
「実態調査の報告」	
第2章 NPO 法人活動者の個人属性・働き方・意識.....	21
－ 「NPO 活動と就業に関する実態調査」 から－	
はじめに.....	21
第1節 分析の視点.....	22
1. 分析軸の選定.....	22
2. 個人属性.....	23
(1) 性別.....	23
(2) 年齢.....	23
(3) 配偶者の有無・子供の有無.....	25
(4) 学歴.....	26
(5) 収入.....	26
(6) 団体要因.....	28
ア. 団体の活動分野・収入.....	28
イ. 保険.....	29
ウ. 寄付.....	30

(7) まとめ .....	30
第2節 働き方 .....	31
1. 活動年数 .....	31
2. 活動時間 .....	32
3. 有給職員の賃金 .....	33
(1) 賃金額 .....	33
(2) 賃金の決定方法と評価 .....	35
(3) 賃金変化 .....	37
(4) 処遇全般に対する満足度 .....	38
4. ボランティアが受け取る支払い .....	39
(1) ボランティアへの支払形態 .....	39
(2) ボランティアへの支払金額 .....	40
(3) 適当なボランティアへの支払い形態 .....	40
5. 活動形態の変化・理想的な活動形態 .....	41
(1) 活動形態の変化 .....	41
(2) 理想的な活動形態 .....	42
第3節 活動の動機ときっかけ .....	43
1. 活動のきっかけ .....	43
2. 活動の動機 .....	44
第4節 仕事とキャリア .....	46
1. 活動内容 .....	47
(1) 活動内容 .....	47
(2) 活動内容の違いに対する認識 .....	48
(3) 団体へのコミットメント .....	49
2. 資格 .....	50
3. 講座・セミナー .....	52
第5節 活動のバックグラウンド .....	54
1. NPO 以外の仕事 .....	55
(1) NPO 以外の職業 .....	55
(2) NPO 以外の仕事内容 .....	55
2. NPO 以外の社会活動 .....	57
第6節 満足度・意識 .....	58
1. 労働者意識 .....	58
2. メリット .....	59
3. デメリット .....	60

4. 満足度 .....	61
5. 今後の見通しと希望.....	63
(1) NPO 活動の継続意思.....	63
(2) 将来的な希望進路 .....	64
第7節 望まれる支援・政策 .....	64
おわりに.....	68
1. 働き方について .....	68
2. 賃金について.....	68
3. 活動の動機・きっかけについて .....	69
4. 仕事とキャリアについて .....	69
5. 活動のバックグラウンドについて.....	70
6. 満足度・意識について .....	70

## 「調査分析」

第3章 団体要因・労働条件・継続意思－有給職員の賃金分析を中心に－ .....	73
第1節 問題意識.....	73
第2節 分析のフレームワーク：検定仮説.....	74
第3節 変数の設定 .....	76
1. 個人調査から得られた変数.....	77
(1) 基本属性 .....	77
(2) 現在の NPO における活動全般.....	77
(3) 賃金 .....	78
(4) 活動形態転換.....	78
(5) 活動継続意思と満足度.....	79
2. 団体調査から得られた変数.....	80
(1) 基本属性 .....	80
(2) 財政状況 .....	80
第4節 推定モデルおよび結果.....	80
1. NPO 労働者の賃金関数 .....	80
2. NPO 労働者の賃金はどのような要因で変動するのか －団体要因か個人要因か－ .....	83
3. NPO 労働者にとって賃金は活動の継続意思や満足度を左右する要因か －精神的充足だけでは生きていけない？－ .....	85
4. 補論：NPO 労働者の活動形態はどのような要因で転換するのか.....	87

5. 補論：NPO 労働者の賃金の決定方法および処遇全般に対する評価はどのような要因で変化するのか.....	88
第5節 考察.....	89
章末表.....	93
第4章 有償ボランティアの働き方と意識－謝礼は活動継続につながるか－.....	103
第1節 問題意識と分析の視点.....	103
第2節 有償ボランティアの属性.....	104
1. 性別、年齢、学歴.....	104
2. 世帯の収入、個人の収入.....	106
3. 活動分野、団体の属性.....	108
4. 活動時間.....	109
5. 謝礼や経費の支払い.....	110
(1) 支払いの種類.....	110
(2) 謝礼の金額.....	110
6. 仕事内容.....	112
7. 有給職員、ボランティアとの仕事の違い.....	115
第3節 有償ボランティアの意識.....	117
1. 参加動機.....	117
2. 参加動機の分類.....	119
3. メリットとデメリット.....	122
(1) メリット.....	122
(2) デメリット.....	125
第4節 有償ボランティアの労働者意識.....	128
1. 利他的行動と利己的行動から「ボランティア性」を考える.....	128
2. 労働者意識と「ボランティア性」.....	129
(1) 変数の説明.....	129
(2) 推定結果.....	130
第5節 「有償」部分は継続につながるのか.....	132
1. 活動継続の要因分析.....	134
(1) 変数の説明.....	134
(2) 推定結果.....	135
第6節 まとめ.....	137
1. 属性と意識について.....	137
2. 有償ボランティアの位置付けについて.....	138



3. 展望と課題.....	139
第5章 NPO活動への参加経路について.....	142
はじめに.....	142
第1節 参加経路の違い：紹介か公募か.....	143
1. 個人属性による違い.....	143
2. 活動を始めた動機による違い.....	146
3. 小括.....	154
第2節 参加経路の違い：紹介者との関係.....	155
1. 紹介者のNPOとの関係.....	158
2. 紹介者との関係.....	160
3. 小括.....	167
第3節 NPO法人調査のデータから.....	168
第4節 まとめ.....	170

## 「NPOの現場からの視点」

第6章 NPOにおける労働とボランティアー現場の視点からー.....	173
第1節 揺れるNPOの現場.....	173
1. 新しい人材の流入.....	173
2. ミッションと労働条件の乖離.....	174
(1) NPO法人の優遇税制のないこと.....	175
(2) 行政がNPO法人をパートナーとして想定していないこと.....	175
(3) ボランティアが有給職員の賃金を引き下げる.....	175
3. 労働者とボランティアの分化.....	177
(1) 労働者発生の意味.....	177
(2) 有償ボランティアと労働者意識.....	178
第2節 現場の事例から.....	179
1. 「お金価値」への拝跪.....	179
2. ミッションと労働条件の乖離.....	180
(1) バーンアウトと希望の喪失.....	180
(2) 営利部門の独立、分裂.....	181
3. 自立しないNPO法人の存在.....	181
おわりに.....	182
資料編（調査票、自由回答、基礎クロス集計）.....	185